

学校暦にもとづく時間リズムが
プロスポーツ選手になる確率に及ぼす影響
—アメリカの野球とイタリアのサッカーを事例として—

How does the School Calendar influence on Professional Sport Players?

—A Study in the Field of Baseball in U.S.A. and Soccer in Italy
related to its Educational Implication compared with it in Japan

尾見 康博・榊原 禎宏
Yasuhiro OMI, Yoshihiro SAKAKIBARA

学校暦にもとづく時間リズムが プロスポーツ選手になる確率に及ぼす影響

—アメリカの野球とイタリアのサッカーを事例として—

How does the School Calendar influence on Professional Sport Players?

—A Study in the Field of Baseball in U.S.A. and Soccer in Italy
related to its Educational Implication compared with it in Japan

尾見 康博・榊原 禎宏
Yasuhiro OMI, Yoshihiro SAKAKIBARA

1. 問題

子どもの知的・身体的な達成 (achievement) はどのような条件に規定されるか、という問いは、教育・学習の営みを考える上での基本的なテーマである。これまで、生物的、社会的あるいは心理的な側面からこの説明が試みられてきたが、誕生日という、後に変えることのできない条件を起点にして社会的な条件が重なることで、彼ら／彼女らの達成が左右されていることについては、プロスポーツ選手を例に榊原・尾見 (2005) が実証している。

この結果によれば、誕生日が学校歴の始期に近いほど、プロスポーツ選手になっている者の割合は高い。これは、日本の場合4月2日から翌年の4月1日までの生まれというくくりで同一学年に扱われる一方、子どもたちの身体的な発達度合いの違いからスポーツの出来・不出来が社会的に拡大された結果のためではないか、と考えられる。

この点については、Dudink (1994) の研究において、オランダとイギリスのサッカー選手の事例から、各スポーツ年度の開始月以降の四半期ごとに選手数が多いことが明らかになっている。つまり、サッカーのユース・リーグとプロ・リーグのいずれについても、スポーツ年度の開始月により近い誕生日グループに属しているほど選手数が多いことを実証しており、教育システムとの関連を示唆するのである。

ここでさらに深められるべきは、遅い月生まれのために早い月生まれの子どもと比べて発達上の運動能力が優れていない場合、かれらに注がれるまなざしは、地域・文化にかかわらず同じなのだろうか、という点である。かりにある季節に生まれた者の身体的能力の発達・発育が先んじているために、グループ化により優位に立ったとする。これは低学年・低年齢であればあるほど十分に考えられることである。しかしながら、このことが彼ら／彼女らを高く評価し、そうでない者を低く評価することでなければ、子どもたちの出来・不出来あるいは自信のあるなしはその後拡大しないかもしれない。ここに、身体機能のありように加えて与えられる社会的な影響を無視できない理由がある。

そこで本報告では、さきに日本のプロ野球とJリーグの登録選手を例に分析した結果を踏まえて、日本以外の地域・文化における事例を分析することにより、「日本的」なまなざしや仕組みの有無についての考察を試みる。

2. 方法

アメリカのプロ野球選手とイタリアのプロサッカー選手の誕生日を下記資料をもとに調査した。プロ野球におけるアメリカは、歴史、伝統、マーケットの大きさ、世界中の野球選手のあこがれである

ことなどから言っても、代表的事例として問題ないものと思われる。プロサッカーの場合は、欧州をはじめとして、いくつもの国・地域で同様に盛んであるが、中でももっとも代表的なリーグの一つを抱えるイタリアを選んだ。

アメリカ・フロ野球選手

アメリカのプロ野球組織であるMLB (Major League Baseball) の公式サイト (<http://mlb.mlb.com/NASApp/mlb/index.jsp>) からリンクしている各チームのサイトにある登録選手リストの誕生日データに基づき集計した。集計対象になったのは、メジャーリーグ30チームで1247名であった。アクセス日は2004年7月15日であった。

イタリア・フロサッカー選手

イタリアのプロサッカー組織であるセリエAの公式サイトに選手の誕生日情報が掲載されていなかったため、Yahoo! Japanが提供するサイト、スポーツナビ内にあるセリエAのチーム情報 <http://sportsnavi.yahoo.co.jp/soccer/eusoccer/0506/italy/team/index.html> にある登録選手リストの誕生日データに基づき集計した。集計対象となったのは、20チームで658名であった。アクセス日は2005年2月27日であった。

なお、日本のプロスポーツ選手を対象とした榎原・尾見(2005)では、4月1日生まれを3月生まれに含めたが、本論ではそのような操作をしていない。

3. 結果

アメリカのプロ野球選手(以下MLB選手)とイタリアのプロサッカー選手(以下セリエA選手)の誕生日をそれぞれ月別に集計した。その結果、MLBとセリエAの間で異なった傾向が見られた(表1, 表2)。各月の日数を元にして期待値を算出し(2月は28.25日とした)、カイ二乗検定を行ったところ、MLB選手では有意ではなかった($\chi^2=15.2$, $df=11$, n.s.)が、セリエA選手では有意であった($\chi^2=299.7$, $df=11$, $p<.001$)。

次に、アメリカとイタリアの学校歴に合わせて、9月から順に頻度を並べた図を作成した(図1, 図2)。セリエA選手は、MLB選手の場合と異なり、誕生日によってその人数が大きく異なっている。とりわけ、1月生まれが多く、12月生まれが少ない。全体的傾向としては、1月から順に並べると、人数が徐々に減少している。

表1 MLB選手の誕生日

誕生日	度数	割合(%)
9	109	8.7
10	104	8.3
11	116	9.3
12	97	7.8
1	104	8.3
2	92	7.4
3	95	7.6
4	106	8.5
5	108	8.7
6	96	7.7
7	87	7.0
8	133	10.7
合計	1247	100.0

表2 セリエA選手の誕生日

誕生日	度数	割合(%)
9	55	8.4
10	44	6.7
11	39	5.9
12	28	4.3
1	81	12.3
2	67	10.2
3	63	9.6
4	49	7.4
5	55	8.4
6	54	8.2
7	56	8.5
8	67	10.2
合計	812	100.0

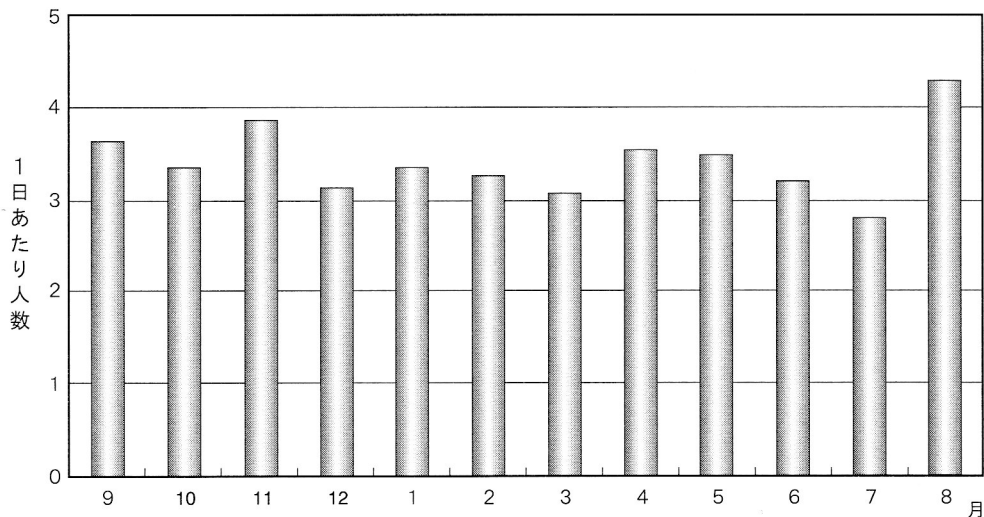


図1 誕生月別に見たMLB選手の人数

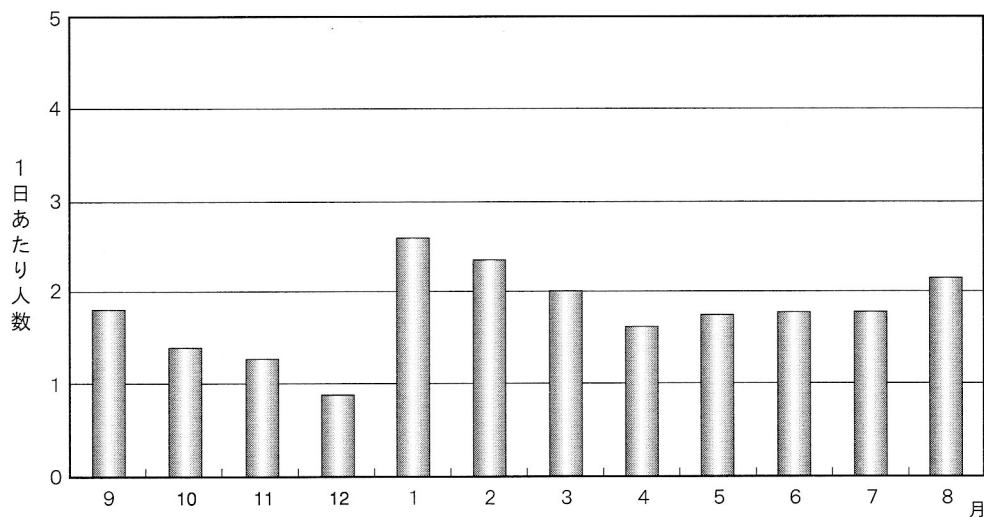


図2 誕生月別に見たセリエA選手の人数

4. 考察

MLBとセリエAを事例にした誕生月の分析結果は、必ずしも一貫した結果を得られなかったが、いずれも学校暦の影響がないことでは一貫しているといえるだろう。

榊原・尾見(2005)において、日本ではプロスポーツ選手になる確率が誕生月によって影響を受けており、それが学年暦という学校の制度によるものであることが示唆された。MLBの結果は、この傾向が少なくともアメリカのプロ野球では見受けられないことを明らかにしており、日本のスポーツ教育の独自の側面を浮かび上がらせている。すなわち、日本のスポーツ教育が、学校の学年という単位にかなり拘束されている可能性である。換言すれば、日本のスポーツ指導者が、無自覚的に、学年毎のまとまりで子どもたちにまなざしを向け、学年の中での身体能力の差異が誕生月によって生じていることに気づかずに、指導実践している可能性である。

セリエAの結果も、日本のような学校暦と深く関わった傾向は見られなかったが、予測できなかった

た傾向があることが明らかとなった。この傾向は、例えば、1月生まれから順に誕生月が12月生まれに近づくほど、不利になる何かを突き止めることにより具体的に明らかになるが、現段階の筆者にとっては解釈が困難である。

榊原・尾見(2005)や本論で対象となった事例は、それぞれの国の代表的なプロスポーツであり、小学生や場合によってはそれ以前から、子どもたちが親しんでいるスポーツである。そしてそのスポーツをしている子どもたちの多くが、将来プロ選手になることを夢見ている。だからこそ、スポーツ指導者・教育者が子どもたちに向けるまなざしが、ある種の錯覚に基づいたものであるなら、それは修正した方がよいのではないかと考えられる。すなわち、子どもたちが小さければ小さいほど、学年のまとまりの中で運動能力の優劣を判断せずに、できれば、かれらの誕生月を配慮することによって、誕生月による有利不利をなくすようにすべきではないかということである。

最後に、野球やサッカー以外にもプロスポーツは世界中で見られるし、とりわけ、サッカーはイタリア以外でも欧州を中心に世界中にプロリーグが存在する。本論で得られた知見がどこまで一般化可能であるかは、そのような事例における検討結果に委ねられている。

引用文献

Dudink,A. 1994 Birth date and sporting success. *Nature*, 368,592.

榊原禎宏・尾見康博 2005 誕生月はプロスポーツ選手になれる確率を変えているか?—日本の教育実践における社会的背景— 山梨大学教育人間科学部紀要, 7(1), 189-193.

附記：本研究は二人で議論を重ねた上で、2、3、4を尾見、1を榊原が執筆した。